

平成28年 11月4日

関係各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168

E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

厳しかった夏定植作型を終えて、ようやく秋めいてきたのかなあと感じております。
昔だったらお盆過ぎ…、彼岸になれば…、最近では10月10日を過ぎれば…、
いくらなんでも秋めいてきたといえると思うのですが、今年は違いましたね！

最近の情勢をご報告いたします。(この報告は、HPに載せない方が良いかな?)

15年産オランダ産/フランス産/国産百合球根 (夏秋作型中心のレポート)

9月26日～10月上旬にかけて北関東・東北方面の出張をしてまいりました。
毎年ほぼ同じ時期に行っている出張です。

昨年(15年)は…、
14年産NL産/FR産にあまり球根品質格差がなかったように感じます。感じます…。
お盆以降、比較的気温が下がり、涼しく秋作の品質は(平均品質は)、高かったです。
新潟県/東北のみならず、西南暖地も涼しく、品質はまずまずとなっていました。
結果、10月/11月の切花相場は安かったです。(14年の10月は、もっと安かったです。)

今年(16年)は…、
15年産NL産/FR産に、球根品質格差が大きかったように感じます。
15年産においては、FR産の品質がNL産のそれを上回ったように感じます。感じます…。
昨年とは打って変わってお盆明け以降、「夜温」を中心に高温が続きました。
栃木県宇都宮市近郊では、9月の平均気温が平年より0.6℃も低いのに、最低気温の平均は、1.6℃も高いというデータが出ている様です。
確かに夏から秋にかけて曇りの日も多く、近年では西日本より東日本側のほうが日中の最高気温が高い日が続いていましたが、今年は西日本側のほうで日中最高気温が高かったように感じています。(西日本ではもともと夜温は高い。)
本年の最大のポイントは、7月下旬以降、北海道から鹿児島まで夜温が高い事だったのではないのでしょうか？(他にも様々な気象要因はあるでしょうが…。)

15年産(16年切花分)においては確かにFR産の平均品質が高かったのかもしれませんが。
しかしそれよりもむしろ、今年の夏秋期異常気象(高夜温)が、切花品質・流通量・流通時期に与えた影響のほうが大きいのでは…。

確かに「安定した気象条件で栽培しやすい作型・時期では、球根の持つ力の差は出にくい。」
「過酷な気象条件ほどその差は大きく開く。」とは思いますが…。(だから夏作は、リスク回避・失敗確立を減少させるためにFR産を主力にしたいと考えていますが…。)
夏作にとってFR産は欠かせません。冬作に南半球産球根の流通量が減少するのと同じくらいの意味だと思っています。

1月～4月期の切花相場は安定していました。
5月期の切花相場は、流通量が横ばいだったO.H/O.T系については、2010年以降では2番目の安さ。

出荷量が減少した A. H/L. A 系は、前年とほぼ同等価格でした。

6 月の O. H/O. T 系は…A. H/L. A 系は…、

		O.H/O.T		A.H/L.A	
	2010	¥177.1		¥66.2	
	2011	¥169.8		¥62.4	
	2012	¥161.5		¥54.6	
	2013	¥164.1		¥54.6	
	2014	¥158.7		¥53.8	
※	2015	¥191.9	前年比流通量激減	¥62.7	前年比流通量激減
※	2016	¥162.8	前年比流通量横這い	¥54.7	前年比流通量微増

*39 協力市場統計より（8 月送付済資料ご確認ください。）

15 年 6 月期の平均単価が高かったのは、前年との流通数変動の結果なのでは？他の花も一緒？

16 年 6 月期の平均単価は、確かに前年比だと安いですが、過去 7 年間の 6 月期と比べると…。

各年の流通量の推移と価格の動きをもう少し分析したほうが良いのでは？

本年の 7 月末くらいまでの出荷作型は、リン付き不足が問題となっていた。

これは、低温積算不足が原因と考えています。

8 月/9 月期作型では、栽培難易度は高かったが、リン付き不足が指摘されたのは一部ビビア、一部インディンガヤメントくらい。

8 月お盆前出庫作型のオランダ産球根は、本当に例年より品質が悪かったのか？（ブラックノズや腐敗事故は除きます。）

8 月お盆明け出庫 9 月以降定植作型においては、球根品質劣化が始まったように見えますが、これも例年のことのような気がします。むしろ劣化するのが遅かったのでは？

7 月中旬以降 8 月中旬までは、その時期としては、異常高値が続きました。なぜ高値が続いたのでしょう？

8 月下旬から 10 月上旬まで百合だけではないすべての花が安かった。なぜでしょう？

日本経済不振（本当に景気悪いのか？）切花販売不振（なんで花は売れないの？）という理由では、今回の安値は説明がつかないのでは？

なんとなく、「卸売業という仕組み」の問題が見え隠れし始めていませんか？（多くの取引が前年対比、過去実績比。）**百合だけの問題ではないと思います。花業界全体の問題（種苗会社・花市場）。**

昨年（15 年）は、わが地元北魚沼花卉園芸組合切花生産販売の歴史の中で、確実に記録・記憶に残る大失敗の年だったと思います。

このことにより、夏秋切花産地、そして市場買参人の皆様へは様々なご迷惑をおかけしたことと思います。産地・農協・球根業者共々、大反省の年となりました。

この大失態を踏まえて、迎えた今年（16 年）は、

①生産調整（7 月単月出荷量大幅減産。物日流通対策強化。）

②イエローウィン減産

③カサブランカ減産

④目合わせ/心合わせ（共選の原点/共選の基）

⑤共選適正品種の開発プロモーション（ザンベジのカサブランカ並み定植密度、完全露地栽培 etc.）

⑥技術委員中心とした減肥栽培 etc.

*20 代～90 代で百合切花を生産する「共選出荷者」は、毎週月曜日夜 7：00～8：45 参加、無断欠席は翌週共選出荷停止という厳しい罰則を設けて臨んだ本気目合わせ。同じ産地で切花栽培に取り組んでいたにも関わらず大きく開いてしまった生産者同士の距離感・孤独感を少しでも解消する。

問題意識や目標の供給を図るという意味では、高い効果を発揮したようです。

目合わせは、単なる品質管理ではなかったということの様です。（心合わせ）

そこには必ず農協職員と市場セリ人がささえ続けていました。これって当たり前のことではないんです。

普通のことではないんです。

今や日本の O.H/O.T 系流通本数は、約 80,000,000 本内外（輸入切花含む）。

ピークは、約 120,000,000 本内外でした（2004 年）。

そのうち、

① 共計も実行する共選産地生産量は、約 **19,000,000** 本（何団体？）（うち新潟県約 8,500,000 本）

② 経営球数 900,000 球以上 6,000,000 球未満。 約 **16,000,000** 本（何法人？輸入切花は？）

③ 経営球数 300,000 球以上 900,000 球未満。 約 **12,000,000** 本（何法人？何団体？何農家戸数？輸入切花はこのカテゴリー？）

④ 経営球数 1 球以上 300,000 球未満。 約 **33,000,000** 本（何法人・何団体・何農家戸数？ここにも輸入切花が？）

⑤ etc.

① 販売形態は、多くの場合 J A 系統を窓口として、市場を中心とした卸売販売。300,000 球以上の経営球数でも、共選販売を選択している本数はこのカテゴリー。共計を取る。共計を取らない共選は…？

②～④ 販売形態は、多くの場合いわゆる個選。J A 系統を窓口にしたケースと、1 事業体として販売・卸売市場出荷がメインだが、様々な販売先を模索する動きも出てきている。

②～④ 販売形態は、都市部大手市場から出荷先を地方の中核市場へと、出荷割合をシフトしている傾向も出てきている。

こうしてみると、今や共選 O.H 系切花産地は、マイノリティー（少数派）。**少数派って…ワクワクしませんか？**
個選 O.H 系切花産地は、マジョリティー（多数派）。

ということになりそうです。

ちなみにピークからの減少速度は、ここまでの所、共選側も個選側もほぼ同等速度。

ところで、O.H/O.T 系切花産業の生産骨格を経営規模別に考えるって、今まであまり考えてなかった？

12 月～5 月期は、圧倒的に個選が主力。（西日本も東日本も）。輸入切花の流通量は、市場価格へ影響力は無い。

6 月～11 月期は、共選・大手個選（900,000 本以上の生産量がある法人形態は、ほとんどが東日本に在している。）・輸入切花と三つ巴となっている。夏場の小規模個選は生き残るために…。（全国に分布する彼らは、すでに販売方法・生産方法の模索を始めている様に見えます。③販売形態の方も…。やはり早いな～。）

昨年第 1 回百合サミット in 埼玉深谷のセミナーにおいて、買参人から話題提供されていた中に、「夏の O.H/O.T 系、冬の O.H/O.T 系は、今や別商品・別規格」という発言がありました。

これはどういう風に受け止めればよいのでしょうか？重要な切り口だなと思いました。周年切花出荷者にとっても、考えさせられるコメントだったのではないのでしょうか？

* 個選（販売体・経営体）の皆様は、引くのも進むのも決断が早い。責任の所在も比較的明確。

* 共選（販売体・参加農家経営が別）の皆様は、比較的決断するのに時間がかかる。何せ複数の生産者の集まりだから。

共選選択の皆様は、共選という販売方法を選択しているだけなのに、あたかも生産団体（圧力団体？）という風に勘違いされている方が依然多い。一つの販売体なのに、同一産地内で個々の既得権の主張すら起きてしまう。（生産方針・販売方針の一本化という個選にはない手続きが必要。ここが会社組織人である市場のセリ人が大事にしているポイントだと思う。相手も組織人だから。）

地元北魚沼花卉園芸組合の失敗は、まさしくこれが原因だった。（誰か一人の責任ではない。）

共選というのは、販売方法名で生産団体名ではありません。

今年の夏秋期の切花生産販売流通は、新しい発見がいっぱいありました。

全農にいがた販売データを見る限り、県内大産地が良くなれば、全体の空気が良くなる。各産地の持ち場

がクリアに見えてくるように思いました。

それぞれ規模の違う経営体・販売体の共選参加者が、昭和後期/平成初期の気持ちに立ち返って、もう一度原点から見直してそれぞれの役目を見いだせれば、百合切花はまだ面白いですね。

信じられますか？関東・西日本だけでなく、東北・新潟ですら40~60日の夜冷栽培を実行した人がいることを！まだまだやれることがありますね！（共選産地の中にすらいましたからね！）

皆、年は取ったけど、若い人もそれなりに増えてきていますよね？

若い人も面倒くさがらずに先駆者が今の自分たちと同じ年代だった時、何をしてきたのか、もう一度確認してみたらどうでしょう？

北魚沼の目合わせ・心合わせは、苗ものや球根生産出荷していた時代にまで巻き戻ったみたいでした。（昭和40~50年代）

来シーズンも絶対続けてほしい。さらに精度を上げてほしい。きっとそれが求められるから。今の時代に合わせて、何が求められているのか？何が必要なのか？

球根販売業より、切花生産販売業の方が今は圧倒的に面白そうですね！（他人の芝生が青く見えているだけか？）

外国産球根の生産流通は、転機を迎えています。これらの変化を踏まえて、共選はその連続性と時間管理が武器になるはず。今後大きな強みが出てくるはず。

このことに対するヒントは深谷百合かな〜。（中小農家の集まりができる事って…）。これから生き残る共選販売という手法は…、面白くなると思いますよ。

11月の東北・新潟施設産切花品質は、10月までの切花品質から大幅に改善する産地が出てきます。昨年並みに良くなるのではないのでしょうか？

もうひと頑張りです。

ところで、A.H/L.Aは…、深谷の高野君からのレポートがまだなのでまた後日。

5月/6月期生産流通対策。7月/8月/9月酷暑期生産流通対策など、お話したいことがたくさんあるのですが…。

12月以降は、いよいよ中間地・暖地のシーズンになります。球根品質劣化がやや心配されますが…、頑張ってください。ここまでの9月/10月期は、大変だったことかと思いますが、これからです。

10月中旬以降は、盆と彼岸が一度に来たくらいの高値相場でした。なぜですか？来年はどうなります？

11月に5~7月上旬・8月下旬~10月上旬分ロス、どれだけ取り返せますかね？

16年産南半球産百合球根

納品が始まっています。NZ産は、芽が太い。

CH産は、芽は良いが…少し腐敗が見える…かなあ？

岐阜県揖斐郡池田町の南半球産試験栽培は、約160ロット。今週から作業開始です。

16年産オランダ産/フランス産百合球根

流通状況

当社の場合、前年比で（15年/16年比較）

	発注確保数	受注数					
O.H/O.T系	99.0 %	94.7 %		11月4日現在	（在庫…十分かなあ…？）		
A.H/L.A系	92.3 %	88.2 %		11月4日現在	（在庫…十分かなあ…？）		

となっております。

14年/15年比較において、O.H/O.T系は、8.0%以上減少しておりました。

14年/15年比較において、A.H/L.A系は、11.0%増加しておりました。（深谷雪害からの復活分のみ。全国はなぜ増えた？）

ほぼ日本全国の傾向と同じ動きとなっていたと思います。

従って、ここまでの取引状況はまずまず妥当な線ではなかったかと思えます。全国も似通った動きなのかなあ～。

生産国側の状況は、

○A.H/L.Aの掘り取りが始まった。

作況指数は、予測と違って「99.5」くらい、決して豊作とは言えないとの事。黄L.Aがやばいかな？

○サプライズ結果はある。

○水害の影響はまだはっきりと見えてこない。（対象品種は酷くなる。プレミアムはさほど酷くならない。）

○取引の進んでいる国と進んでいない国がある。

○取引の進んでいる品種/サイズと、進んでいない品種/サイズがある。

（シベリア18/20・カサブランカ22/UPが欠品しないことを祈る！）

○A.H/L.Aについては、大きい球根が出てこない。大きいサイズは販売不振なのでOKとの事。

春先より価格が下がっているのは、数品種しかありません。（むしろ価格上昇気味。意外でした。）

これから球根価格に少なからず動きが出るのか、まだわかりません。

球根の充実が遅れている為、掘り取りは遅れ気味です。これは球根品質維持の為にやむを得ない、4～6月の切花流通に影響が出なければいいが、とやや心配しています。

今週、オランダ港積み込みが確定しているケース数はたった1700～2500ケース。（この分は年内納品可能。）

今後どのくらい積めるのでしょうか？これも心配しています。P.O社の例を挙げれば、今週月曜日から輸出加工作業開始。ちょうど1週間遅れだそうです。

南半球産L.Aが少ないですからね…。間に合わない…。

いよいよ最終調整時期に入り始めました。

掘り取り結果に基づく調整作業が鉄砲百合/A.H/L.Aで始まっています。

対応いただきますよう、よろしくお願いいたします。

ご不明な点等ございましたら、お問い合わせください。

以上
森山 隆